

静岡県の食料品・飲料等の出荷額、事業者数、付加価値額は、わが国でも1、2位を争う高い水準です。一方、世界でも類を見ない超高齢社会に突入したわが国では、どの地域においても健康寿命の延伸が最重要課題の一つであり、介護予防やフレイル対策などヘルスケアに着目した食品の開発や食事サービスの需要が高まっています。また、AI（人工知能）、IoTやビッグデータなど、情報技術革新に対応したデータ駆動型の研究・製品開発への発想の転換も喫緊の課題です。

このような背景のもと、静岡県は、内閣府地方創生交付金による「健康食イノベーション推進事業」の採択を受け、令和2年度から、食を中心としたヘルスケアの取組みの視点を取り込んだ新プロジェクト「フーズ・ヘルスケア オープンイノベーション プロジェクト」を立ち上げました。静岡県立大学は、本プロジェクトの中核機関として、「機能性開発プラットフォーム」の強化と「データヘルス・リビングラボ」の運営を担うとともに、食・ヘルスケア産業の中核を担う人材の育成に全学をあげて取り組むこととしました。



静岡県立大学 学長
鬼頭 宏

温暖な気候と多様な地形に恵まれた静岡県は、食材の宝庫であり、かつ日本で一、二を競う長い健康寿命を誇っています。この地域特性を地域創生に生かすことを目的に立ち上げたのが「フーズ・ヘルスケア オープンイノベーション プロジェクト」です。

この健康食イノベーション推進事業は、研究者だけの取り組みであってはなりません。食とヘルスケアに関わるさまざまな産業に従事するかたがたとの協働が必要です。そこで「ビジネス・IT実践スキルアップ講座」を開講することにしました。データサイエンス、マーケティングの手法を活用して、地域の持続可能な成長を目指したビジネスモデルと一緒に考えてみませんか。



静岡県立大学 副学長
産学官連携推進本部長
合田 敏尚

新型コロナウイルス禍のような社会の急激な変化への対応に加えて、わが国で顕在化しつつある人口減少・超高齢社会の課題を乗り越え、幸福度の高い地域を創るために、地（知）の拠点大学に求められる最も重要な責務は、地域内の人材を効果的に育成し、地域社会のイノベーションを推進する仕組みを創ることだと考えます。

本教育プログラムは、しずおかの食・健康関連産業の未来を創るという目標に向けて、本学の研究・教育力を総動員し、文理融合プロジェクトとして提供するものです。本教育プログラムによって、地域の未来のビジョンを俯瞰し、最先端のIT実践スキルの研鑽に取り組まれる多くの社会人にお会いできることを楽しみにしております。

健康イノベーション教育プログラムに関するお問い合わせは
静岡県立大学健康食イノベーション推進事業ホームページの
「お問い合わせ」からご連絡ください。

URL:<https://www.livinglabs-shizuoka.jp/>



健康食イノベーション



データヘルス・
リビングラボ静岡

静岡県立大学 ふじのくに発イノベーション推進機構
「健康イノベーション教育プログラム」担当

〒422-8526

静岡市駿河区谷田52-1 地域・産学連携推進室

TEL&FAX 054-264-5441

E-MAIL renkei25@u-shizuoka-ken.ac.jp



2020.08

しずおかの食・
ヘルスケア産業の
未来を創る人の
ための

募集！社会人受講生

令和2年度 健康イノベーション教育プログラム ビジネス・IT実践スキルアップ講座

食材の宝庫である「食の都」しずおかには、地方創生の原動力となる食品関連産業が集積しています。現在、ヘルスケアに着目した食品の開発や食事サービスの需要が高まっています。AI（人工知能）など、情報技術革新に対応した製品開発も喫緊の課題です。

令和2年度より静岡県立大学では「健康イノベーション教育プログラム」を開講します。

同プログラムでは、食・ヘルスケア産業の様々な分野で活躍している社会人に対して、文理融合による最新知識を提供し、地域の将来ビジョンを明確に意識していただけるように配慮しています。

また、データサイエンスの実践スキルの獲得を支援し、新しい製品やサービスを創出するプロジェクトのリーダーや中核メンバーとなるための実践的な学びの場を提供します。

期 間：令和2年度後期日程（9月末～令和3年2月）土曜午後開講

会 場：静岡県立大学 健康食イノベーション推進事業 静岡サテライト

（静岡市葵区御幸町3-21 7階 静岡市産学交流センター）

※オンライン（同時双方向/オンデマンド）を中心に開講します。

ワークショップは上記会場で開催いたします。

対 象：食品関連産業に従事する社会人 40名（申込先着順）



静岡県立大学 健康食イノベーション推進事業
・機能性開発プラットフォームの強化
・データヘルス・リビングラボの構築
・専門人材の育成

*静岡県立大学 健康食イノベーション推進事業の一環として開講するため、
本年度の受講料は無料です。

開講科目と講師の紹介

(講師は各科目開講順 ◎は科目責任者)

A 健康と食

現代社会において、栄養過剰が懸念されている人(肥満をはじめとしたメタボリックシンドローム等)および栄養不良が心配される人(やせ、拒食、高齢者の低栄養等)といった栄養障害の二重負荷が叫ばれて久しい。これらの解決に「健康食」が重要であり、それらを支えるために、ヘルスケア産業の創出、健康増進や介護リスク軽減に関する製品の開発は、喫緊の課題である。さらに、健康食開発企業は、開発力を高めるために、即戦力となる人材を求めている。そこで、「健康食」の定義や科学的根拠、システムティックレビューの意義や方法論などの理解と、健康を支える産業の創出、生体反応からみた次世代の健康食の開発を目指し、課題解決に繋がる能力を身に付けることを目標とする。



食品栄養科学部
教授 合田 敏尚



◎食品栄養科学部
教授 新井 英一



食品栄養環境科学研究所
特任教授 若林 敬二



薬学部
教授 賀川 義之

B ITとデータの科学

4つの観点から、IT技術の活用についてわかりやすく説明する。「インターネットを中心にみたIT技術」では、インターネットが出現し現在広く活用されるにいたるまでに普及した重要な基本的技術(TCP/IP、Web等)について学ぶ。「R言語を用いた統計プログラミングの基礎」では統計分析向けのプログラミング言語であるRの基礎を学び、「食データサイエンス：電卓代わりに使うRプログラミングで機械学習」では、実際の食データを対象に、機械学習のしくみと実際について具体的に学ぶ。「Pythonプログラミングの基礎」および「Pythonプログラミングによるシミュレーション」では、現在広く使われている汎用プログラミング言語であるPython言語について、演習を交えて基礎を学んだ後、モンテカルロシミュレーションなどのシミュレーション技法を実践的に学ぶ。



◎経営情報学部
教授 武藤 伸明



奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科
教授 金谷 重彦



経営情報学部
教授 湯瀬 裕昭



経営情報学部
教授 渡邊 貴之

C 地域産業とマーケティング

地域の食関連産業(食品加工業、流通、物流、飲食などのサービス業、農水産業など)の発展を推進する人材として、同産業において今後イノベーションやマネジメント、産学間連携などの中核を担うために必要とされる文理や国内外にわたる、情報、知識、分析等の手法、などを提供する。具体的には、健康寿命延伸のための食環境整備、企業の健康経営と食環境整備、食関連産業のマーケティング、ガストロノミー・ツーリズム(美食観光)の世界的潮流と日本での可能性、食関連の産業集積とイノベーション、食関連企業の海外展開などの講義とディスカッション、ワークショップを通じて、同産業の現状・課題・対応策を検討し今後の発展を展望する。



◎経営情報学部
特任教授 西野 勝明



経営情報学部
教授 大久保 あかね



経営情報学部
教授 岩崎 邦彦



食品栄養科学部
教授 市川 陽子

D ビジネスモデル

食関連産業(食品加工業、流通、物流、飲食などのサービス業、農水産業など)において、今後求められている新たなビジネスモデルについて、健康経営の観点からのヘルスケア分野のソーシャルビジネスとヘルスケア産業が抱える問題点、ファミリービジネスの事業継承とその差別化、女性の視点からの新規ビジネスを創り育てるプロセス、新たな産業のエコシステムとオープンイノベーションの枠組みなど、多くの観点から事例に基づいて論じる。講義とディスカッションを通して、食関連産業における新たなビジネスモデルについて、多角的・俯瞰的に考える能力を身につけることを目標とする。



◎経営情報学部
教授 東野 定律



経営情報学部
教授 落合 康裕



国際関係学部
講師 宮崎 晋生



経営情報学部
准教授 国保 祥子

E 地域企業とSDGs

まず、SDGsの概念、およびその考え方を学んだ後、SDGs的な考え方と、受講者が所属する団体のミッションや実践可能性との対応関係について討論する。企業の社会的責任(CSR)については、企業が社会的責任を果たすために必要な説明責任について学んだ後、海外の事例と静岡(日本)の事例を比較しながら、今、企業に求められている社会的責任とは何かを、事例を通じて考える。

産業等の人的活動が及ぼす環境負荷について学んだ後、バイオテクノロジーを用いた環境負荷低減技術の開発について考察する。また、人口減少・高齢化社会に直面した都市・地域の持続可能性について学んだ後、人口減少社会に対応した都市・地域経営のあり方について、事例の紹介とともに今後の方策について考える。



◎国際関係学部
教授 湖中 真哉



経営情報学部
准教授 上野 雄史



食品栄養科学部
准教授 原 清敬



経営情報学部
准教授 岸 昭雄



学長
鬼頭 宏

F ワークショップ-グループ実践演習

※「ITとデータの科学」を履修していること

AI、IoT技術、ビッグデータの活用により、産業・社会構造が知的集約型にシフトしていく現代の状況を俯瞰した後、「健康と食」等の領域で得られる実例データを用い、健康・食産業と関連するデータの収集と分析に関する具体的な活用事例を、実践的な演習を通して学ぶ。ITベンチャー企業における実務経験の豊富な外部講師による最先端のAIやIoTの実践例を通して、産業界においても多様な分野の知識・技能の組み合わせが必要となる事例を学び、ITの技術によって新たな価値が創造される例を多く経験する。本実践演習を通して、IT技術を用いたデータ収集・解析の初歩のスキルを修得し、データサイエンスを活用した産業イノベーションの将来を展望できるようにすることを目標とする。



奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科
教授 金谷 重彦



◎食品栄養科学部
教授 合田 敏尚



経営情報学部
教授 武藤 伸明



食品栄養科学部
准教授 伊藤 創平



株式会社アドダイス 代表取締役CEO
広島大学デジタルものづくり教育センター客員教授
医仁会武田総合病院臨床研究センター研究員
伊東 大輔

対象：食品関連産業に従事する社会人 40名(申込先着順) 受講無料
期間：令和2年度後期日程(9月末~令和3年2月) 土曜午後開講

会場：静岡県立大学 健康食イノベーション推進事業 静岡サテライト (静岡市葵区御幸町3-21 7階 静岡市産学交流センター) ※オンライン(同時双方向/オンデマンド)を中心に開講します。ワークショップは左記会場で開催いたします。



全6科目の履修者には、「健康イノベーション教育プログラム修了認定証」を授与します。

※講義日程、各講座のシラバス、申込方法等の詳細は、[静岡県立大学健康食イノベーション推進事業](#)のホームページからご確認ください。

健康食イノベーション

